

平成 24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200879	事業の開始年月日	平成16年1月1日
		指定年月日	平成16年1月1日
法人名	医療法人社団 東華会		
事業所名	サリ्यूブルあさひ壱番館		
所在地	(〒241-0803) 神奈川県横浜市旭区川井本町45-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
定員計		18 名	
		エント数	2 エント
自己評価作成日	平成25年1月9日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にとって、居心地の良い環境作りを目指している。拘束、抑制が無く笑顔が絶えない日々を送れるように努めている。利用者様の誕生日会、各ユニット毎の外食会、季節に応じた様々な行事や外出により、リビング依存の生活からストレス解消の場をより多く取り組んでいる。又、各利用者様には居室担当の職員を設け本人の要求や欲求を聞き、できるだけ応えられるようにしている。利用者様の家族に関しては、毎月の壱番館新聞の発行と利用者様の現状を知らせる手紙の送付によってホームの生活ぶりを知り安心して頂いている。地域密着の面については奇数月の運営推進会議開催や回覧板等により情報を取り入れ活動している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年1月18日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>
◇身体拘束をしないケアの取り組み
玄関は施錠せず、居室の鍵も本人に任せ、安全面と見守りに努め、自由な暮らしを支援している。管理者は身体拘束により、利用者への身体的、精神的苦痛を職員と一緒に学んでいる。利用者が以前、何度も外出願望で徘徊し探したこともあったが、利用者のその原因を考え、不安やストレスを出来るだけ解消するケアに心掛け、家族にも説明し、協力を仰いでいる。利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識に立ち、管理者と職員は絶対に拘束は行わないという姿勢を貫いている。
◇医療連携と看取りに関する指針と実践
医療連携体制を敷き、協力医療機関の医師と看護師が連携し、安心して医療を受診できる体制にある。看取り介護を実践しており、看取りの理念を基に、ターミナルケアの指針を作成し、医師の指示のもとに家族と職員が協力して実践している。
<事業所が工夫している点>
◇家族とのふれあいを大切にしている
事業所は、家族に「あさひ一番館だより」を毎月送付し、活動報告と利用者の日頃の生活状況を知らせている。そして書面で、利用者の一人ひとりの健康状態や近況報告を毎月送付し、その人らしい暮らしぶりを報告している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サリューブルあさひ壱番館
ユニット名	1階(たんぼぼ)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様一人ひとりが笑顔の絶えない日々を送れるようスタッフ一同にて取り組んでいる。又、理念も職員全員が共有しており実践に繋げている。	・理念は前管理者と職員が話し合いにより作成し、1階・2階の事務室に掲示している。 ・管理者は新入職員研修時に理念を説明し、職員には毎月の給料明細に、理念やねぎらいの言葉などを同封して実践に結びつけるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くにある地域包括センターでのイベントや、近所のスーパーや花屋さんへの買い物等を通じて交流している。今後も活発的に取り組んでいきたい。	・町内会に加入し、地域の盆踊りや運動会、防災訓練に参加して交流を深めている。 ・地元の中学校の生徒が福祉体験学習に来所している。 ・地域のボランティアが日本舞踊、腹話術、太鼓・三味線演奏に来所し、ふれあいを持ちながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症に対する理解を求めべく話し合いを行なっている。地域の人々にはまだまだ理解されていないが見学自由とし、壱番館のイベントには声かけを行なっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、話し合いを行っており、意見や要望を聞き、それらをサービス向上に活かしている。	・運営推進会議は2か月に1回開催している。会議では事業所の運営状況や活動内容、外部評価の受審などを報告し、意見交換を行っている。 ・夜間想定避難訓練に近隣の方の協力を要請している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横浜市健康福祉局とは事故報告書の件について連絡を取り合っている。その他としては区役所の高齢支援担当や保護課担当とも連携を取っている。	・管理者は区の高齢支援担当や保護課担当へ運営や業務上の問題などを報告し、相談している。 ・県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修に参加し、情報交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員、正しく理解している。玄関の施錠を含めて身体拘束のないケアを行なっている。	・職員には身体拘束について研修を実施し、拘束をしないケアに努めている。 ・玄関は施錠せず、居室の鍵も本人に任せ、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。 ・旭区徘徊SOSネットワークに数名登録し連絡体制を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修があれば積極的に参加している。又、ホーム内においては“申し送り”を密にして防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会がほとんどない。管理者にとっては会議や内部研修等により説明の機会が若干ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結及び解約、改定時には本人及び家族に対して十分な説明を行なっている。又、来所時においても説明する機会を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望はユニット会議等にて話し合っている。更に緊急事項に関しては“申し送りノート”を利用している。外部に対しては運営会議にて説明している。	・運営推進会議や家族会、家族の来訪時には声かけし、生活状況を報告すると共に意見や要望を聞いて運営に反映させ、申し送りノートにも記入して共有している。 ・家族から車椅子を調達して欲しいとの要望があり対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している全体会議にて職員の意見や提案を聞き話し合っている。	・管理者は毎月の全体会議・フロア会議に職員からの日常業務の要望・意見を聞き、業務の改善に反映している。 ・職員の要望により、早番・日勤、遅番などの業務負担を均等にして欲しいという要望があり受け入れている。 ・法人担当役員が巡回時に職員の要望や提案を聞き、事業に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に取り組んでいる	意向調査やステップアップシートにより管理者との話し合いの場を設けており、管理者はそれらをもとに評価をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修、内・外部研修等を定期的に行なっており、知識の習得、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	旭区・瀬谷ブロック連絡協議会に加入しており定期的な交流を行なっている。又、法人内では他のグループホーム、デイサービス、老健との職員研修を行なっており、相互交流を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様本人の様子を常に伺い、本人が困っている事、不安な事等を傾聴し、安心できる関係作りが築けるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係を保つ為に情報の交換や知識も交え、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の様子を見ながら判断し、出来ることはやって頂き、出来ない事は介助する。そのような考えのもとで自立支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係を築く為に、お互いの情報交換や自らの失敗談を話すなど、本当の家族のように接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換にも力を入れていますが、行事等では家族と本人との絆を保てるよう、行事参加への声かけを行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく関係が途切れないように支援しているが認知症の度合いや家族の要望等により出来ない場合もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は家族と一緒に馴染みの美容院へ行ったり、病院の帰りに行きつけの店で外食をしたり、墓参にも行く方もいる。 ・利用者の友人や知人が来訪し、リビングや居室で歓談し、お茶を出すなどの配慮をしている。 ・年賀状や手紙が届き、返信を書くお手伝いもしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様にとって、その場の雰囲気や環境が常に良い方向に向かうように計画していると共に職員にも徹底している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今後の生活についての相談を受けており、本人や家族からの要望があれば助言や対応を行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の要望については常に傾聴し本人の希望や意向に添えるように努めている。会話の困難な入居者様については職員間にて話し合いを持ちより良い方向を模索している。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は日常の行動や表情の中から、利用者の意向や希望を汲みとるように努めている。 意向を自分から伝えにくい方には、散歩や入浴時のゆったりとした時、夜間の静かな時間帯に一緒にお茶を飲みながら話を聞いている。 家族から情報を得ることもある。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月のフロアー会議やケアカンファレンスにおいて、一人ひとりのニーズにあった対応を話し合い、実行できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の全体申し送りにより、入居者様一人ひとりの変化を見逃さないように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケアカンファレンスを行い、現在の本人にとって一番良いと思われるケアを考えている。又、その際には家族の意見も取り入れている。	・入居前に自宅や病院を訪問し、本人や家族と話し合い、希望を聞いている。 ・介護計画はアセスメントを基に利用者を観察し、モニタリングを行い、職員とケアカンファレンスを行い、医師や看護師の意見を入れて作成している。 ・通常は6か月毎に見直し、変化があれば随時状況に応じて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や経過記録及び申し送り等の記録を日々共有し、全員が目を通す事によりケアに役立てている。更にそれを計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	たとえば、入居者様に体調不良等の特変時が発生した場合には“かかりつけ医師”との連絡を密にし、常に速やかな対応に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の状況により難しい面もあるが、出来ることから徐々に交流を深めている。地域包括センターでのわんわんスマイル等のイベント等にも長年参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるように提供している。又、家族様との納得も得ている。	・本人や家族が希望するかかりつけ医の医療を継続して受診できるように支援している。 ・現在はほとんどが協力医療機関の往診医の診察を受診している。 ・医療情報は往診記録に記録し、それ以外は通院記録書に記録して共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各職員は月4回の看護師往診時に入居者様の現状を気軽に相談し、入居者様の健康管理や医療機関活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医師との相談の中で協力病院関係者との情報交換を行なっている。入退院時には病院のソーシャルワーカーと連絡を取りながら対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には本人、家族、事業所、かかりつけ医師とで現状、今後について話し合い、方針を共有している。又、家族に対しては「重度化した場合の対応指針」を説明し同意も得ている。	・看取り介護を行っている。ターミナルケアは家族の要望があれば行う方針である。 ・入居時に重度化した場合の対応の指針を説明し、同意を得ている。 ・急変時には医師の指示の基に看護師、家族、職員が話し合い連携して最善の方法を採ることで関係者間で共有している。	・いままでに看取りを複数名行っていますが、重度化や終末期に向けた対応について、これからも続けて職員の教育を実施し、一層充実した看取りに取り組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医師の指示に基づき、敏速に救急搬送でき、かつ受け入れ先との連携が取れるようになっている。緊急時マニュアルも整備されており救急救命訓練も年に1回、行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署署員立会いにもとで、避難訓練を年2回行っており全職員が身につけている。地域住民参加による夜間想定避難訓練も実施しており徐々に地域住民の参加の増えてきている。	・防災・避難訓練は消防署の協力を得て、夜間想定訓練を含め、年4回実施している。 ・訓練には、地域の方に「近隣の住民の皆様へお願い」の書面を配布し、協力を要請し、参加を得ている。	・非常災害用の飲料水は準備されていますが、非常食についても種々研究し、利用者に向けた備蓄を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの性格、人格に合わせ、日々接するように心がけている。各職員は常に受容と傾聴を忘れず対応している。	・職員は、一人ひとりの思いや趣味嗜好等、利用者主体の生活を最優先とし、プライバシーに配慮した支援を心がけている。 ・介護に対する姿勢や支援方法、守秘義務については、研修や会議の場、申し送り時に全職員が共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを決定する時には、出来るだけ入居者様の意見を求めるようにしている。職員には入居者様の意向に沿った決定をするよう指示している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が求めていることに応えるようにしている。たとえば外気浴、散歩、買い物、レク等を入居者様に提案し確認しながら行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の頻度で訪問理美容を招いたり、入居者によっては通ったりしている。入浴後の髪の毛の手入れ、女性の入居者様にはマニキュア等をして喜んで頂けるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の入居者様には料理作りを手伝って頂いたり、スタッフと入居者様が一緒に食事を取る事によって食事時間が楽しく過ごせるように心がけている。	・職員と利用者がメニュー作りから後片付け迄、一連の作業を楽しみながら一緒に行っている。冷蔵庫の中を見て利用者の好みと栄養バランスを考え、急遽献立を替えることもある。 ・季節毎の外出行事や誕生日には、弁当持参で出掛けたり、外食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量を記録に残しバランスの良い食生活が営めるように心がけている。食事介助が必要な入居者様にはレベルにあった介助をするようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はしっかりと口腔ケアを行なうようにしている。自分で出来る入居者様には声かけをし、場合によっては見守りを行っている。又、月4回の訪問歯科によっても口腔ケアは行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助の必要な入居者様一人ひとりの排泄を“排泄チェック表”に記録し、排泄パターンを確認した上でトイレ誘導や声かけを行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・大部分の方が自立している。プライバシーに配慮しつつ、トイレ使用後や入浴時に状況をそっと確認し、自立の継続支援に努めている。 ・支援が必要な利用者には、排泄チェック表からパターンを把握し、耳元で声掛けしトイレでの排泄を支援している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品を提供したり、軽度の体操等を取り入れて体を動かすように声かけしている。又、重度の便秘に関しては医師や看護師と相談し薬にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の希望を傾聴し、本人の入浴したい時間帯での入浴を行なっている。原則的には曜日や時間帯には捉われないよう心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴日、時間帯、回数等決めず、一人ひとりの好みを優先している。週2日から毎日入浴する人もいる。 ・入浴を好まない利用者には、人や日時を替えるなど工夫をし、身体機能によっては、二人介助で対応する等、状況に合わせた支援を提供している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、定時の巡回を実施している。眠れない入居者様には話をしたり、リビングにて眠くなるまでくつろいで頂いている。日中も状況に応じてはリビングや居室にて休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法、用量については、ほとんどの職員が理解している。症状の変化等についても申し送り等にて随時、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂いたり、新聞紙を折って頂いたりして役割分担の支援をしている。又、タバコの好きな入居者様に対しても本数を決め喫煙して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外出や外気浴を行なっている。又、外食会を行ったり、入居者様の希望により買い物や地域包括センターのイベント等にも参加している。	・利用者は職員と一緒に、近くのスーパーマーケットへ食材の買い物に出掛けている。車椅子の方も公園まで散歩に出る等、利用者のペースを尊重しつつ気分転換を図っている。 ・毎月1回程度外食の機会を設け、楽しむと同時に居室依存からの脱却と本人が自己決定する機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の要望を伺い、金銭面で可能な限り買い物に同伴もしくは職員が購入している。お金の所持については、以前にアルコール購入等の問題があった為、原則として本人には渡さずホームが管理。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様とご家族の意向を照らし合わせた上で、その都度状況判断をしながら対応している。実際には定期的に家族に電話をしている入居者様もいる。手紙についてはほとんどの入居者様は興味がない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、入居者様と一緒にいる。毎日の掃除、空調の調節や換気。季節の花を花瓶にさして各テーブルに配置する等をして季節感を採り入れている。又、行事においても季節の飾り付けを行なっている。	・居間は、室温・湿度に配慮と工夫をし、掃除は利用者と職員が毎日行い清潔で居心地の良い空間となっている。 ・壁面には、利用者の作品や行事の写真を飾り生活感・季節感を演出し、職員との会話を楽しみながら落ち着いて過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ観賞用のソファがあたり、テーブルは談話できるように配置したりして入居者様が快適に過ごせるよう工夫している。一人になれる空間は居室であるが各自、自由に出入りしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、昔から馴染んで使用していた物を持参していただいたり、購入したりして本人が居心地よく生活できるよう配慮している。	・入居時に馴染みの物品を持参するよう依頼している。中には、使い慣れた裁縫道具を持参する方もいるが、本人の状況をみて対応している。 ・利用者は職員と一緒に、居室の掃除をし清潔である。冬季には加湿器を全室に設置し健康保持に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、買い物、片付け、洗濯畳等、「できること」や「やりたいこと」を安全に行なって頂いている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 サリューブルあさひ壱番館

作成日 平成25年3月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害用の備品・備蓄品については備蓄されている。ただし、非常用の食糧については、まだ十分とは言えない。	グループホームと言う特色により普段から食料の備蓄は多い。しかし、いざ災害となると十分かつ余裕の持った食料の備蓄が必要であり、備蓄を行って行く。	カンパン、缶詰等の食料を購入し、備蓄する。また高齢者が多いため、高齢者にあった食料も検討してゆく。	4月～6月の3か月間。
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。